

8 . 秋田県高校の現状

担当委員 山田 雅子
長岡 功

1 . 県内の高校の現状

現在、秋田県的高等学校は全日制で 62 校あります。昭和 63 年のピーク時が 68 校でその後の学校統廃合で学校数は減少しています。最大の原因は少子化です。秋田県では昭和 22 年（1947 年）に 47,838 人ものが生まれましたが、その後 10 年間はものすごい勢いで減少を続け、現在に至るまで減少傾向を続けています。そして平成 17 年（2005 年）には 7,697 人にまで減少しました。

人口千人あたりの出生数を出生率といますが、秋田県は平成 7 年（1995 年）から全国最下位に転落し、その後は一度も最下位から脱出できていません。それどころか、出生数も出生率も、一貫して減少を続けているのが現状です。そのため定員割れや学級数の減少がおき、「第五次秋田県高等学校総合整備計画」が策定され改善・整備が進められています。

（1）高校の統廃合

平成 16 年に高等学校の統合等再整備計画案が出され、その中で全日制課程の適正な規模と配置が明示された。

鷹巣・阿仁地区 湯沢地区 能代地区 大館地区 角館地区

小規模校統合等再整備計画案を基に統合の準備が進められてきました。

秋田県教育委員会では第五次秋田県高等学校総合整備計画の中の一つに、少子化に対応し活力ある高校にするために北秋田地区、能代地区、湯沢地区の高校を統合し、平成 23 年～25 年度開校を目指し準備を進めています。その概要と今後の整備計画の内容を紹介します。

<北秋田地区>

北秋田地区統合高等学校（仮称）平成 23 年 4 月開校予定、普通科 5 コース・生物資源化・緑地環境課

【統合される学校】

・ 鷹巣農林高校 ・ 鷹巣高校 ・ 合川高校 ・ 米内沢高校

【統合校建設場所】・ 鷹巣農林高校敷地内

< 能代地区 >

能代地区統合高等学校（仮称）平成 25 年 4 月開校、普通科 3 コース、国際コミュニケーション科・情報ビジネス科。平成 23 年から両校で統一した新制服を着用する

【統合される高校】

- ・ 能代北高校
- ・ 能代商業高校

【統合校建設場所】 能代北高校敷地内

< 湯沢地区 >

湯沢地区統合高等学校（仮称）平成 23 年 4 月統合。県立初の普通・商・工の総合制高校が誕生し 2 年課程の専攻科（介護福祉科・生産技術科）が平成 24 年 4 月設定

【統合される高校】

- ・ 湯沢北高校
- ・ 湯沢商工高校

【統合校建設場所】 湯沢北高校敷地内

2 . 秋田県高等学校 第 5 次整備計画（案）

秋田県教育委員会教育課より提供頂いた第五次高等学校総合整備計画より抜粋したものを以下に記す。

第五次高等学校総合整備計画

第 部

個性や創造力をはぐくむ学校づくりの推進

1 主体性を生かした教育課程の編成

生徒の能力・適性、興味・関心等の多様化が進んでおり、個に応じた教育を一層強化していかなければなりません。そのため、特色ある学科、コース・類型等を設置することに加え、教育課程や指導方法の改善等を図る必要があります。

主な施策は次のとおりです。

- ・ 学科の枠をこえて履修のできる総合選択制を導入します。

- ・「総合的な学習の時間」の充実を図ります。
- ・高校と大学等高等教育機関との連携を図ります。

2 グローバル化に対応した教育の推進

国際化が進む現代、生徒に生きた語学力や国際感覚を身に付けさせ、21世紀に県内外で活躍できる人材を育成します。

主な施策は次のとおりです。

- ・高校生の海外研修、海外留学、海外修学旅行などを推進し、人材の育成を図ります。
- ・外国語指導助手の配置を拡充します。
- ・仁賀保高等学校に情報メディア科を設置しました。
- ・秋田工業高等学校と由利工業高等学校に、環境に関する学科を設置しました。

3 家庭・地域社会との連携の強化

学校、家庭及び地域社会が連携を一層強化し、それぞれの役割を果たすことにより、生徒の「生きる力」をはぐくむ必要があります。

主な施策は次のとおりです。

- ・地域社会と連携した「開かれた学校づくり」を推進します。
- ・高校生ボランティア活動等推進事業を実施します。
- ・高校生インターンシップ推進事業を実施します。

4 高校入学者選抜制度の改善

高校進学率が97%を超え、多様な能力や適性を持つ生徒が入学してきております。生徒が

「ゆとり」ある学校生活を送る中、「生きる力」をはぐくむことができるよう、多様な個性や能力・

適性を十分評価するために入試制度の改善に努めます。

主な施策は次のとおりです。

- ・数学に学校問題選択制を導入します。
- ・推薦入試で、希望する学科において実技試験等を実施します。
- ・調査書と学力検査の比重の置き方を弾力化するなど評価尺度の多元化を図ります。
- ・特色ある学科・コース等において他通学区からの受け入れの弾力化を図ります。

5 教員の研修と資質能力の向上

今日、いじめや不登校等、教科指導以外の様々な課題に対応することが、学校及び教員に要請されています。それに応え得る新たな資質能力を備えるために研修し研鑽を積むことが必要です。

主な施策は次のとおりです。

- ・教職員海外コミュニケーション研修事業を実施します。
- ・異校種間の相互交流や体験的研修を行います。

第 部

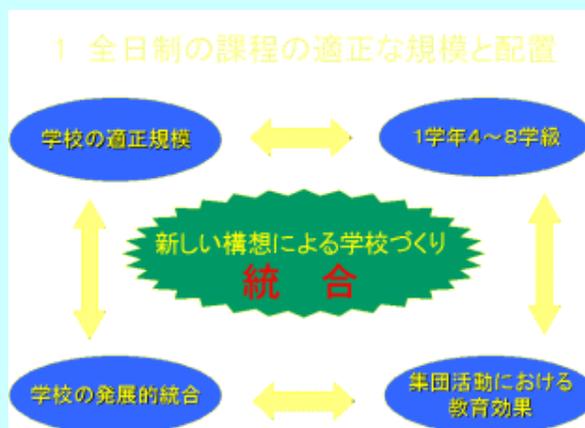
新しい発想を生かした学校づくりの推進

1 全日制の課程の適正な規模と配置

現在の3通学区に普通科、専門学科、総合学科をバランスよく配置し、中学生の進路希望に応えるようにします。また、中学校卒業者が大幅に減少することを踏まえ発展的な統合も含めて全日制の課程の規模と配置の適正化を図ります。

主な施策は次のとおりです。

- ・男鹿地区、北秋地区で複数校を統合します。
- ・各学校や地域の実情を考慮し、女子校の共学化を進めます。



2 中高一貫教育の推進

学校の複線化を図り、児童生徒や保護者の選択の幅を広げ、じっくり学ぶことを希望する子どもたちに「ゆとり」ある生活をもたらし、個性と創造力をはぐくむ教育の一層の充実を図るため、中高一貫教育を導入します。

主な施策は次のとおりです。

- ・平成16年度に、横手工業高校を母体とする併設型中高一貫教育校を設置します。*横手清陵学院高等学校開校(平成16年)
- ・平成17年度に、大館商業高校を母体とする併設型中高一貫教育校を設置します。*大館国際情報学院高校開校(平成17年)
- ・平成18年度以降に、秋田市に併設型中高一貫教育校、または中等教育学校を設置します。

3 特色ある学科、コース・類型への対応

国際化、情報化の進展、少子高齢化、技術革新等に柔軟に対応し、生徒の多様な希望に応える

教育を推進するため、学科の改編や時代に対応した新しい学科を設置します。

主な施策は次のとおりです。

- ・六郷高等学校に福祉科を設置します。
- ・仁賀保高等学校に情報メディア科を設置します。
- ・既存の学科の内容等の充実を図ります。

4 定時制及び通信制の課程の改善整備

勤労青少年のためだけの定時制、全日制の補完的存在としての定時制からの脱却を図り、様々な

学習ニーズに応えるため、定時制の課程独自の特色ある学校を創設していく必要があります。

主な施策は次のとおりです。

- ・秋田市の3校(秋田東、秋田工業、秋田中央)を統合します。
- ・1学年の入学人数10人未満が2年間続く場合、募集停止又は統合を検討します。
- ・県北地区、県南地区に通信制の分室を設けます。
- ・「フリースクールの空間」を設置します。